

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572207496		
法人名	有限会社 まつかさ園		
事業所名	グループホーム まつかさ園		
所在地	秋田県能代市ニツ井町字下野家後95-19		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「助け合いの心」に基づき、利用者様一人ひとりの個性、自己決定を尊重し、生活の中で出来る能力を見出し、又出来ない事は助け合い、その人らしい、生き生きとした生活を送っていたり出来るよう、安心、安全な生活環境を行い、ここが我が家のような居心地良い様に、スタッフ一丸となって支援しているところをアピールします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき、日々努力を惜まず地域の方の意見に耳を傾け、利用者が生き生きとした日常生活を過ごすための工夫と支援が行われております。利用者と職員がお互いに助け合いの心を持って、共同生活を過ごしている様子がうかがわれました。職員の笑顔とチームプレー、そして楽しい職場であることが、利用者へのよりよいケアにつながることであったと言葉が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、代表者、管理者と職員は共有しサービスの実践に取り組んでいる。	理念がなくては前進が望めないとの思いから、研修会に参加し職員間で話し合っ作成しております。常に心に刻むため、見えやすい所に貼り、実現に向け日々取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体は地域の行事等に参加し、地域の一員として日常的に交流の向上を図っている。	地域の特養・学校等から行事への参加の招待を受け、参加しております。事業所の行事案内は、地域に溶け込む1つの方法として、職員が個別訪問しております。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や地域ケア会議にて、認知症の人の理解を深め地域住民に伝え地域貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者さん、家族さん、市役所職員、地域包括職員、民生委員、地域住民にも参加していただき、その中の意見等を取り入れ、サービスの質の向上に活かしている。	2ヶ月に1回の会議には、行政側からの参加の配慮を頂いております。月のテーマは、利用者や事業所の状態に合わせた内容や相談等を提示し意見を頂き、サービス向上につながるよう努められております。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市民福祉課職員が参加され情報提供していただき、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険更新の代行手続きの際に、担当者に相談し、助言を受ける機会としております。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束により認知症の進行性、言葉による拘束等も職員に理解してもらい、玄関の施錠もかけることなく、身体拘束は行っていない。	研修会や状況に合わせた方法を適宜話し合っております。利用者の気持ちに添うため、又、合わせた言葉がけ等を模索し、専門職であることを念頭に置いたケアを心がけております。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の研修等で学び入居者さんの傷、内出血等に十分注意し虐待を見逃さないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者さん数名おり、研修等に参加し、制度について理解を深め活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は利用者さん、家族等の不安なく疑問点を気軽に聞けるように配慮を図り、文章、口頭等で十分説明、納得された上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者、家族さんに意見等を反映されるように会議、面会時も頻回に声かけられたり、利用者家族の意見、要望を外部者へ表せて運営の反映を図っている。	意見・要望を頂くことが利用者へのよりよいケアにつながることを考え、面会時に家族に声掛けをし意見を求めています。又、目安箱の利用も積極的に働きかけております。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議又は年2回の賞与時に意見、目標等を話し合う機会を設け常に職員の意見を反映に努めている。	職員の方が話しやすい状況作りが行われております。地震後には、発電機やガスボンベ等の備品の準備の提案に応えられております。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績、勤務状況を把握、指導等で、各自が向上心を持って働くことができるように職員の意見をくんで良い職場環境を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受ける機会を確保し、研修後は復命書により職員会議、内部研修等を行い働きかけながらトレーニングを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代市グループホーム協議会等で研修会実施、同業者の交流の場を作ったり他のグループホームを訪問したりし、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階に本人とコミュニケーションの中で、不安、要望に耳を傾け、お互いの信頼関係を築き安心確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	クライアントが話しやすい場面設定、受容的な雰囲気、姿勢に配慮されながら、ささいな事でも話し出来る事で信頼関係を持って取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの意見や、やり方等を尊重し、支えあい家族的な雰囲気で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を図り、面会時電話等で職員は本人と家族の絆を大切にし本人を支えていく関係に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事、買い物、通院、自宅へ連れては馴染みの場所、人等関係継続に努めている。	外出希望があった場合は、すぐに対応されております。そうする事が、安心につながることであればとの思いから、時を置かず実行されております。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で多く過ごされる入居者さんに対しても、できるだけリビング等で他の利用者さんとの会話されることで孤立させないように利用者さん同士の関わりを大切に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話等で様子を傾聴されたり、ホームに遊びに来られるように本人、家族と連携を行い、入院中も見舞いにより本人、家族と相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの暮らし方の思いや希望、意向を十分に把握し、その人らしい生活が送れるよう検討し取り組んでいる。	利用者1人に対し、担当者1人の体制が図られております。利用者に聞いたり、日々の生活の中から思いを汲むよう努められております。又、会議の中で担当以外の方からの意見も聞いております。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴を活用にて、本人の経験を活かし馴染みの暮らし方、生活環境を作り支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人ひとりの心身状態を把握、その人の能力に応じて1日の過ごし方を行い現状の把握に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんに担当職員を定めケア会議等担当者より優先課題について話し合い本人、家族から意向を収集、現状に即した介護計画に取り組んでいる。	担当制を図り、利用者や家族から意見を聞き、次のケアに活かすためにスタッフ同志で話し合いを行っております。意見を聞き、よりよい支援に努める姿勢が見受けられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を認知症介護の実践や介護計画に活かし、介護計画に実施期間を明示、終了後、モニタリングを行い、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達と関係を深めることで入居者さんの生活の拡がりや充実を大切に回り支援してくれるように働きかけを行っている。(日常的、行事等、ボランティアの支援)		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては利用者さん及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医に通院を支援し、必要に応じては歯科医による往診等で医療を受けるように取り組んでいる。	地域内は、職員の受診介助が行われております。それ以外の所は、家族から協力を頂いております。受診時に必要な情報を家族には口答で伝え、かかりつけ医への情報提供資料を作成し渡しております。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者は日常の関わりの中で変化時に些細なことも準看に伝えては早期発見により本人の苦痛を配慮されながら適切な受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに家族さんへ連絡を行い、入院先とも情報交換し、出来るだけ早期退院できるように協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者さん、家族さんに不安を与えないよう、事業所側が出来る事を見極め、主治医と連携して支援にあたっている。	正看護師がいない現状から、看取りは行わない方針であることの説明が行われております。退居後のことについては、しっかりサポートすることを説明し、安心して頂けるような支援を心がけ、実行されております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時、迅速な対応ができるよう緊急事態の対応策のマニュアル作成、研修等で実践力を身につけて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練時、地域住民も参加し、食料の備蓄対策等を行い、過去の水害時の教訓を活かし、一般住民との別の避難場所を行政に働きかけ確保されている。	地域と行政の協力を得て、災害時の対策は図られております。常によりよい対策方法を模索し、備品等の準備が行われております。職員の人数が足りない時は、地域住民や社会福祉協議会の協力を得ております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さん一人ひとりの人格を尊重し、利用者さんの尊厳を傷つけないように心かけ、個人情報の取り扱い管理を徹底している。	安心して生活して頂くため、利用者の状態把握に努め、自立した生活が過ごせるようにさりげなく言葉かけを行っております。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、希望を表せるように働きかけたり、自分で決めたりされるように考慮されながら納得した日常生活が送れるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし本人が自由に自宅にいけるように、気兼ねない日々の過ごし方を観察し希望に添った取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入居者一人ひとりの個性を大切に髪型、洋服を本人の望む支援、外出時化粧、理容室も入居前に利用された所の継続の配慮に取り組んでいる。外出困難な方は訪問理容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さん一人ひとりの希望、好みを取り入れ食事メニューの作成にあたっている。ゆっくりと食事を行い準備、後片付けも一緒に行っている。	食事前の入念な手洗い、役割分担の中での配膳、みんなで準備した食事を笑顔で頂いていました。又、職員の方に「おいしいねえ」と伝え「ありがとう」と答える団らんの食事風景でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に対しての1日のカロリー計算を通して栄養のバランス、水分量に十分配慮、夜間対も水分補給をできるように準備されながら習慣に応じた支援に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者さんの力を引き出しながら口の中の汚れ物や臭いが生じないように洗浄液使用と含嗽等の支援、義歯の挿入、除去時十分注意を図り炎症、出血等に十分観察し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン習慣を活かして誘導、下げることができない場合は介助を行い、失禁時はプライドを傷つけない様配慮し、オムツの使用を減らしプライバシーに配慮された自立支援を行っている。	個々の排泄行動や時間間隔の把握を行い、さりげなく声がけを行いトイレ誘導を行っております。トイレでの排泄を基本とし、介護用品の減少に努めております。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給、規則的食事の摂取を行い食事の工夫、個々に合わせ牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等での配慮、個々に添った支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望に合わせて、くつろいだ入浴ができるよう支援し、健康状態を確認上でプライバシーを配慮個々にそった支援に取り組んでいる。	状態観察が出来る機会ともなるため、一日置きの入浴が行われております。時間は、本人希望に沿う体制が図られております。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し夜眠れない入居者さんには1日の生活リズムづくりを通した安眠策をとり緊張、疲労の程度を確認し安心して気持ち良く就寝できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者さんが使用する薬の目的、副作用、用途、用量を承知しており入居者一人ひとりが医師、歯科医師、薬剤師等の指示通り適切に服薬を行い症状を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かしては掃除、食器拭き等を日課を継続されている入居者にスタッフから感謝の声かけを行っては張り合いや喜びを与えている。個々の楽しみ(ちぎり絵、折り紙、塗り絵)等趣味を活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	地域の行事等に参加されたり、入居者さんの希望に沿って散歩、ドライブ、買い物、自宅への本人の希望を取り入れ、家族、地域の人々と出かけるように行っている。	週3回の買物の時は、利用者がカートを押したり野菜を選ぶ手伝いを行って頂く等、出来る能力を生かす工夫が行われております。利用者が考えたことを尊重し、職員の迅速な対応が行われております。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ事を職員も理解し家族にも、入居者は自分がお金を持っているだけで気持ち的に違うことを説明し、スタッフと一緒に買い物に行き、欲しい物が購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話をかけられたり、時々職員から家族に電話入れてみようかと声かけをしている、手紙、年賀状も自立で書ける人は自立で行わせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音、臭い等に配慮、季節感を取り入れられたり、季節に応じ飾りを変えたり利用者の作品、小物等で家庭的な雰囲気づくりで快適に過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	自分のペースで行動出来る広い廊下と、ソファの配置の工夫により穏やかに集える空間となっております。写真や手芸等の作品の飾り付けを行うことで、自分の生活の場が意識出来るような工夫が行われております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入居者同士の助け合いや気持ちの支えあいができるような支援と日常的に行っては仲の良い入居者さん同士が過ごせる配慮、孤立しがちな入居者が交わる機会を作り、思い思いに過ごせる居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に際して馴染みの物を持参されることを説明し、これまで使っているベット、ダンス、テレビ、備品、家族写真等を飾り個性あった生活空間づくりの支援を行っている。	利用者の使い慣れた物を本人の身体状態に合わせた配置を施し、居心地のよいお部屋作りが行われております。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者を配慮されながら自立して安全に歩行できるように手すりを全体的に設置、玄関には折りたたみ椅子を設置し、身体機能に合わせたギャッチベット等を入れたり安全配慮されている。		